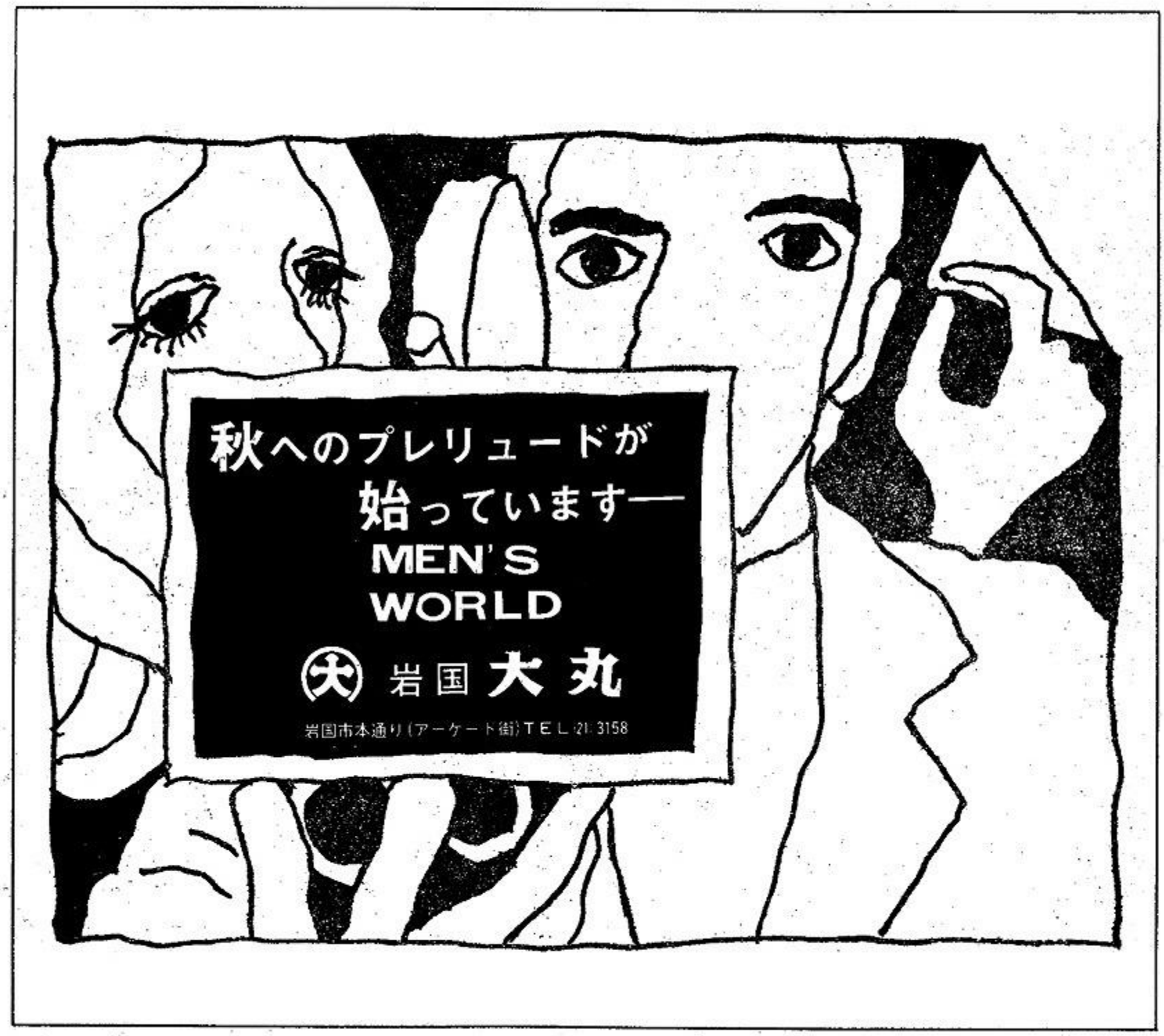
マンドリン・コンサート

15

IWAKUNI PLECTRUM SOCIETY


秋へのプレリュードが
始っています—
MEN'S
WORLD
㊥ 岩国大丸
岩国市本通り(アーケード街)TEL(21)3158

第１５回　定期演奏会

1972　8.19　PM 6:30

岩国市体育館

主催：岩国プレクトラム・ソサェテイ

後援：岩国市教育委員会

ご　挨　拶

残暑きびしい毎日ですが、皆様方にはいかがお過しでしょうか。

しかし夜ともなりますといく分しのぎ易く、今日も錦帯橋には夕涼みの人達が三々五々と集り、鵜飼いの松明と星空を眺め暑気を忘れていることでしょう。

その星空の「ひこぼし」と「おりひめ」の逢瀬ではありませんが、この私達の定期演奏会も年に一度きり、こうして皆様方と久し振りにお会いすることができました。いつも変りない温い御支援に団員一同感謝しております。

音楽は、日常生活にうるおいと、憩いと、そして明日への希望をもたらしてくれるものであることは、誰も疑う者はありません。

しかし、音楽を趣味とするにしても、私達のように合奏をするもの、独奏するもの、レコード等で鑑賞するものなどに分けられますが、いずれも音楽の真髄に触れ、その理想に近づこうとする前にアマチュア音楽の発展があるものと信じています。そしてそのために技術の向上を目指すことは勿論ですが、音楽を通じて人格を養成し、団体生活を行なってより高い人間性を育成することが私達の念願であり、また岩国プレクトラム音楽の父とも言える故熊谷幹雄先生の教えとされるところであります。

今年もこの定期演奏会のために、つい先日３泊４日の合宿を行ない仕上げてまいりました。団員一同皆様方の御期待に充分そえるように、自分の力を出し切った演奏をいたしますので、最後まで御鑑賞いただき、御感想の一言もいただければこの上ない幸せと存じます。

末筆ながら、平素御援助いただいております岩国市教育委員会、岩国高等学校、賛助出演の方々また常に変らぬ同好の方々の御厚意に厚くお礼申し上げます。

岩国プレクトラム・ソサエティ
会長　三　浦　孔　司

カーテンとじゅうたん
インテリア
ファッションの店　柳　屋
岩国駅前アーケード街　ＴＥＬ21－0394

カワイピアノ
河合楽器
岩国駅前喫茶コナ隣り
ＴＥＬ　21－0303

第15回定期演奏会によせて

顧問　熊　谷　宗　円

音楽で結ばれた仲間のかぎりない情熱、マンドリン音楽の楽しさ美しさを知っている同好の人たちの息吹きが今宵もステージに客席に感じられます。子守唄のようにかすかにゆれうごく響き、木影の涼ずしさを思わず感じさせる妙なる響き……

音楽文化の活動の低調な岩国にサークル活動として芽生え15年の才月を生きぬいて来たことは例のない事である。音楽愛好者の１人として慶びにたえないと共に今更ながら今は亡き熊谷幹雄先生のありし日のマンドリンに対するかぎりない情熱が想い出されます。

岩国プレクトラム・ソサエティが岩国高校プレクトラムアンサンブルに母胎をもちＯＢ会としてサークル活動を始め岩高プレクトラムソサエティより広く市民のアンサンブルとして今日の姿をなしたる事は周知のことであります。

勉学のあいまに仕事や家事の余暇に同好の志が集り楽しい活動をする、でもそれは決して楽しいばかりではない、週一回の練習に会員が全員集まれるものではない、苦しい時、さみしい日、その集いの中でゆるし合い助けあい希望に燃えて育って来た。育ってゆく、ほんとうに嬉れしい、メンバーの１人１人が音楽のきびしさ楽しさを知っている。

最近の音楽がともすれば新しいという美名のもとに解放的で刹那的であるものが流行している中で、まじめに音楽のきびしさにいどんでいる事は音楽愛好者として考えさせられるものがあります。プレクトラムソサエティの今日までの歩みはアマチュアながら無限にマンドリン音楽の芸術性を追求している事がささえになっているのではないでしょうか。

長い才月の間この若いサークルをあたたかくはぐくまれた同好者、ステージの演奏を眼をほそめて聞かれて来た家族の方々、肩の張らない楽しいコンサートのムードの中で共に豊たかな時をすごす事の出来る多くの方々と共に岩国プレクトラムソサイティの発展を願いながら……。

東洋工業マンドリンクラブ

立秋も過ぎ朝夕どことなく秋めいてまいりました。今宵貴岩国プレクトラム・ソサエティが第15回定期演奏会を開催されますことを私達一同心からお祝い申しあげます。15年もの間には幾多の困難があったと思いますが、それをのり切ってこられたことは、貴クラブの不屈の精神であり、歴史と伝統が大きな力と、支えになってきたことと思います。

常に社会人らしい誇りを失わず、ひたむきな情熱を傾けられ、見事な御発展を遂げられております貴クラブは、文字通り私達のお手本であります。

今後さらに高く大きく栄えられんことと、今宵の演奏会の素晴らしい御成功とをお祈りして、お祝いの言葉とさせて頂きます。

家具、インテリアの総合コンサルタント

家　具　の　山　崎

岩国市麻里布町６丁目４－16　ＴＥＬ　21－3989・5425

PROGRAM

I Mandolin Original

Conductor N. TAKASHIMA

序曲第1番イ長調 …… K・ヴェルキー 作曲

ギリシャ風主題による序楽 …… N・ラウダス 作曲

交響詩「比羅夫ユーカラ」（征夷の史） …… 鈴木静一 作曲

ソプラノ …… 野村三重子

Ⅱ Classic Album

Conductor H. OKUNISHI

交響曲第8番ロ短調「未完成」第1楽章 …… シューベルト 作曲

交響詩「はげ山の一夜」 …… ムソルグスキー 作曲

Ⅲ Mandolin Original

Conductor N. TAKASHIMA

アンデルセン童話「氷姫」より

〝氷の精に魅いられたルディ〟 …… 鈴木静一 作曲

ナレーター …… 石津恵子

アルト …… 野村三重子

曲目解説

序曲第1番イ長調

K・ヴェルキー

ヴェルキーは1904年ベルリンで生まれた。マンドリン界における近代的作曲家で、現在もドイツにおいて活動を続けている。

第1次世界大戦休戦後まもない1924年に処女作「序曲第1番イ長調」（A—Dur）を発表し、その後10年程の間に次々と大きな作品（D—Dur、h—mol、fis—mol、C—Dur）を発表した。彼はこれらの作品群で、マンドリンのスタッカートを中心としたドイツプレクトラム音楽に、管楽器を加えることによって両者の色彩的コントラストを得るとともにダイナミックなプレクトラム音楽を確立することに成功した。

イ長調は Largo の静かな美しいメロディで始まりやがて荘厳な序奏となる。そして Allegro で軽快なメロディが続き、やがてギターの静かなアルペジオにのって美しいマンドリンの調べが奏でられる。これが繰返えされて軽快なテンポで豪荘な終曲となる。曲全体が静かで荘厳なドイツ古典調の中に、近代的で軽快な旋律が駆使されヴェルキーの作風がうかがわれる。

ギリシャ風主題による序楽

N・ラウダス

ギリシャからはマンドリン音楽に3人の有名な楽人をおくっている。すなわち、このラウダスと Dounis、アレショオスである。ラウダスはギリシャの有名なマンドリンギター楽院〝マンドリナータ・アテニエーゼ〟の校長で且つ、この楽院を中心とする合奏団の指揮者でありました。彼のすべての曲にはギリシャ人としての独特の感情が卒直に表わされており、作曲家としての面から見ればイタリアの Falbo、Milanesi 等に一歩及びませんが、彼の郷土愛の力が人々を親しませるのである。代表作としては「ギリシャ風主題による序楽」「エカーヴの嘆き」などがあげられる。

本曲は「エカーヴの嘆き」に比べれば技術的方面においてはやや劣るが、感情的方面においては優れている。曲は荘重で雄大な全楽器のユニゾンに始まり、その旋律は全曲を統一してゆき、次いで Andantino Mosoo の 100 小節間はギリシャ風主旋律が各楽器に反復されて完全にギリシャのクラシックな感情の渦の中に引き込まれてしまう。次の Andante は断続的に現われる全楽器の和絃に助けられながら唯一個のマンドリンが繊細で神秘的な旋律を奏で、ギリシャの民族的感情を唄い上げる。そして Allegro non troppo に入り、歓喜を表現する喧騒な舞踊詩が以前の旋律に対比して力強く独特の雰囲気をかもし出しながら見事な効果をあげ、満悦のクライマックスのうちにこの部分は終る。最後に再び荘重な主旋律がくり返されポリフォニーの中に雄大な最後を飾る。緩徐—急速—緩徐の部分からなるフランス式序曲の形式である。

岩国クーポン歓迎・広島信販月賦販売・友の会を御利用下さいませ。
＊東洋紡指定店
＊柄と信用を誇る高級呉服専門店
㊀ 谷口呉服店
岩国市駅前
TEL岩国(0827) 22－1177・1178

ヤマハ特約店
（ピアノ・エレクトーン・
オルガン・ステレオ・各種楽器）
河村楽器店
岩国市駅前　TEL 21－1808

交響詩“比羅夫ユーカラ”（征夷の史）

鈴木静一

日本書紀の中に「〝阿部比羅夫〟水夫師180杯をつらね蝦夷を討つ」とあります。函館本線の倶知安とニセコの間に〝比羅夫〟という駅があります。阿部比羅夫の名残りでしょう。曲名のそれはこの土地を示し、〝ユーカラ〟とはアイヌ語でアイヌが伝承する叙事詩のことです。

曲は一大水軍をつらね日本海を北上する比羅夫の軍船団の行進に始まる。これは不完全休止のまま遠い女の歌声を残して消える。哀寂を帯びた女の歌声を受ける低音部のモティーフも暗く交錯しながら、荒涼にとざされた北夷の自然の中でのアイヌの寥しさのつきまとう営みを歌い上げる。やがてギターのリズムが重苦しく現われ曲調を変る。それは次第に明るさを増し、アイヌの祭や狩の時を表現する。そして暖やかに、或いは勇壮に昂まるが、又力を失い荒涼の響きの中に消える。次に、不安な変化が来る。これは生地を守ろうとするアイヌ族の、征服者への反抗である。アイヌの反抗は比羅夫北征以来1000年に渉り繰り返されたが、それは流血以前に屈服するのが多かったという。しかし天明年間（1780年頃）におこった所謂〝アイヌの大乱〟は守るも攻めるも峻烈を極めたが、それを更に紛糾させたのは、ロシアの介入である。（曲中低音部に現われる古いロシアの国歌の断片）しかし、この激しい戦乱を最後として、アイヌは反抗を諦めたという。永遠の帰順である。この戦乱が鎮まると、最初に現われた水軍の行進が前よりも華々しく勇ましく奏される。これは終曲を思わせるが再び遠い女の歌声が残り淋しく悲しく次第に遠ざかり曲を結ぶ。

交響詩「はげ山の一夜」

ムソルグスキー

モデスト・ムソルグスキー（1839～81）もボロディン同様、音楽家としてはディレッタントとして発足したが、疑いもなく5人組中でもっとも天分に恵まれた芸術家肌の人物であった。貴族の出身であるが、農奴解放で経済的に困窮し貧乏となったのだが、生涯を通じて生活苦の中に独創的な作品を発表し歌劇「ボリス・ゴドノフ」やピアノ曲「展覧会の絵」その他歌曲に不朽の傑作を残している。また彼のピアノ曲はドビッシーやラヴェルに大きな影響を与えている。

ムソルグスキーもボロディン同様、遅筆で「はげ山の一夜」も1860年に一応出来あがっていたのだがなお改稿して、結局生前には発表されず、彼の死後5年、リムスキー・コルサコフの手で仕あげられて演奏されたのである。南ロシア、キエフの町の近くのはげ山のような奇怪な姿の山中で、毎年、夏至の前夜に妖怪変化どもが集って百鬼夜行の祝宴をひらくという伝説を交響詩としたこの曲は、古今の妖怪音楽中の傑作といえる。

フジカラー純正仕上げ・即日仕上げ

ローズカメラ店 ROSE CAMERA

岩国市今津町1丁目6－4（ユニード前）☎代21－6228

民芸御食事処

天竜茶屋

岩国市駅前中通りアーケード街

TEL 21－3819

曲目解説

交響曲第8番ロ短調「未完成」

シューベルト

一般に、作者が作品を完成しないでしまったというのは、確かに不幸なことだ。しかし、ロ短調交響曲については、それが未完成のまま残されたことがかえって幸わせであったと言いたい。

— 指揮者　フェリシクス・ワインガルトナー —

これは未完成と呼ぶべきでない。第一、第二楽章を聴くと、その美しい旋律の表わし方、その充実しきった内容、悲しみも喜びもすべての人々の魂を限りなき愛をもってとらえて感動させずにおかない。それほど暖かい、また親しみある言葉で、われわれに語りかけてくる音楽だ。こんな万人の交響曲は聴いたことがない。

— ブラームス —

シューベルトは1822年25歳の秋、この「ロ短調交響曲」を作曲した。当時の交響曲の定形は四楽章から組織されているから、第一第二楽章しかないこの交響曲は確かに未完成である。彼は、さらに第三、第四楽章を続けるつもりだったらしい。というのは、今日、第3楽章スケルツォ、1ページの総譜とトリオの半ばまでのピアノのスケッチとが残っているからである。しかし、いかなる理由でこの曲が完成しなかったかは全く謎とされている。彼は、その年の暮にグラーシの楽友協会の名誉会員に推薦され、その感謝の意をこめて制作中のこの交響曲を送った。残りは後に仕上げ追送するつもりであったらしいが、その約束は果されなかったのである。従って草稿はそのままうもれてしまい、彼の死後37年を経て、ウィーンの宮廷指揮者がそれを発見し、同年（1865年）ウィーンフィルハーモニックを指揮して上演したのである。つまりシューベルトはこの傑作を一度も聞かずに死んだのである。

第一楽章　アレグロモデラート（ロ短調3/4拍子）

ソナタ形式で書かれており、始め二つの主題が示され、それがいろいろに発展し、再び二つの主題が現われ、結びをもって閉じる。

まず、あたかも地下の世界からほのぼのと立ち上がるように低い弦楽器が曲の開始を告げ、マンドリンがさざ波のような伴奏を弾き出し、それに乗って管楽器が第一主題を奏する。それが終ると素朴な踊りを思わせるト長調の第二主題がマンドリン、マンドチェロで歌われる。これは、生粋のウィーン児であったシューベルトの好みをよく表わした舞曲調の調べである。これが次第に高潮したところへ再び低音弦の神秘的な調べが出て、さらに管弦楽総奏で力強く、しかしあくまで悠然と発展が行われる。そしてまたマンドリンの伴奏が戻って来て第一主題、第二主題がそれぞれ再帰し、低音楽器の神秘的な調べから結びに入り、曲は深く呼吸するようにのびのびと終る。

御見合・御婚礼専門
石原写真店
岩国市麻里布町3丁目14の10
（岩国駅前国際劇場西）
TEL 21-2316

ドライクリーニング・京洗い
いつも清潔な装いは……
山本ランドリーで
今津八幡宮下　TEL21-2778

シューベルトについて

1719年ウィーンに貧しい教員の子として生まれたシューベルトは、早くから非凡な才能を示した。彼は父に楽譜を教えられ、兄からヴァイオリンを学んだ。そして、彼の天才を最初に認めたその土地の教会の合唱長は、シューベルトの即興演奏を聴きながら「この子は和声を指先に持っている。」と賛じたと言われる。しかし父親は、あくまで息子を教員にすることを考えていた。そして彼をコンヴィクトと呼ばれる国立中学校に入学させたのである。ところが、コンヴィクトは彼にとって音楽を楽しみ、音楽を学ぶのに絶好の場所であった。彼は学校のオーケストラに入り、音楽に熱中した。この時代のある友人の回想によると、「シューベルトは作曲する際、めったにピアノを使わず、小さなテーブルの前に腰を掛け、非常に近眼だったため五線紙の上に身をかがめ、ペンをしゃぶったり、ピアノをひくようなふうに指を動かしたりしながら楽々と作曲した。」ということである。

その後、1814年から3年間、彼にとってはいやでたまらない教員生活を送っている。しかしこの間も作曲は続け、1815年彼の18才の年には「魔王」や「野ばら」をはじめ 144の歌曲、さらに歌劇6、ミサ曲2、交響曲2、奏鳴曲3など、信じられないほど多くの曲を作曲している。1816年、彼は教員をやめ、本格的な音楽の道に入った。そして「未完成」が作られたのが1822年のことである。

ある時彼の友人が、「美しき水車小屋の娘」などの譜面をベートーベンの病床に持っていった時、この瀕死の巨匠は、それを見て「まったく、シューベルトの内には神聖な焔が生きている。」と叫んだと言われている。ベートーベンが死んだ翌年1828年、シューベルトも31才の短い生涯を閉じたのである。最後まで平民の中の平民であった彼は、どんな流行にも従うことなく、常に自分の作曲したいものを作曲した。彼はしかめつらしい交響曲の楽式の中に、薫風に歌う小鳥のように湧き出る調べを注ぎ込み、懐かしさと、優しさとを持って愛情の音楽とした。それは私達の心の中にくいこんで、清らかな慰めと励ましとをもたらす人間らしい音楽である。

各種楽器とレコード

長井楽器店

岩国市麻里布町3－2－9

TEL 21－1850

くすり・カネボウ化粧品

賀屋薬局

岩国市麻里布町3丁目12の10

TEL 21－0465

アンデルセンの「氷姫」による
〝氷の精に魅いられたルディ〟

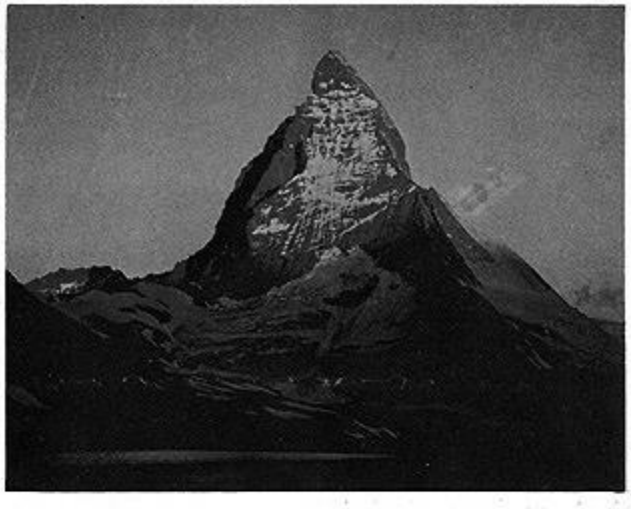
鈴木静一

この原作はアンデルセンの「氷姫」であるが、長大な物語りである為、要約し切り詰めた。その結果、アンデルセンが童話に託す、彼のフィロンソフィから離れたものになってしまったのは申し訳けない。

アンデルセンの童話の世界は、当然、北欧を舞台とするものが多いが、これは珍らしくスイスとなっている。

私は、第二次大戦以前、この物語の舞台となるベルナーオーバーランドやバリスを旅したが、インターラーケンから電車でオーバーランドに入った時、クライネシャイデッからグリンデルワルトの方に別れる電車を見ながら、目の前に聳える、アイガーからつながる生れて始めての 4,000m級の巨峰群にひかれ、ユレグラウヨッホに登り、グリンデルワルトに行く機会を失ってしまった。しかし、バリスの谷は、マッターホルン（登山ではない）でツェルマットに入る道すがら、そして帰りにはローヌの渓谷沿いにレマン湖までバスで下ったので、その辺りの村里のたたずまいに触れることが出来たのはせめてもの倖せであった。

アンデルセンはオーバーランドやバリスをどの程度見て書いたか分からないが、物語には立地的に無理が多いが、そのままの設定でナレーションを草した。これは昔々、山男であった私として愛着深い作品のひとつである。作曲にあたり、アルペンでは欠かせぬチーゲの鈴やアルペンホルンそしてヨーデルなど、ぜひ本物を取入れたかったが、遂に果たせなかった。しかし曲中に現われるマーチやポルカ或は恋人同士の情景のB.G.に流す音楽などはアルペンの民族楽のニュアンスをとり入れることに努力したつもりであるが、出来上がったものは、フランスの体臭が強く≪しまった！≫と思っている。



1　氷の精に魅いられたルディ

中部ヨーロッパとイタリアの間に横たわる大いなる山岳地帯、それはいつも消えることのない氷雪に蔽われた雄大なアルプスである。

聳え立つマッターホルン、モンテローザ、ユングフラウ……

そしてその山々の間を流れ落ちる巨大な氷河に憧れの心を抱いて、世界中から若者達が集って来る。この登山者を嶮しい山々に導きながら、緑の牧場に羊や牛を追い、又切り立つ山にかも鹿を追って山の人々の安らかな毎日が営まれる。ベルナーオーバーランドのグリンデルワルトもその平和な村里のひとつである。

古い伝統と新しいセンス
創業明治六年
クリハラ写真館
岩国市今津町一丁目15－24
TEL岩国21－7766

喫茶と軽食　園
岩国駅前中央通り
TEL 21－4501

しかし、見上げる山々には恐ろしい危険がかくされている。切り立つ岩壁、目もくらむような峡谷、とりわけ氷河は魔性のすみかとして恐れられている。

アルプスの夜明けは遅く、谷底に村々にまだ夜の精がさまよっているのに、ふり仰ぐ山々の頂きはバラ色に輝き始める。

そそり立つアイガーの峯のひとつから聞えてくる陽気なヨーデル！あれはルディである。

ルディは切り立つ岩肌をかも鹿のようにかけ上り、恐しいクレバスも軽々飛び越す若者である。

駑色の皮膚、真白な歯、美しく快活なルディは射撃にかけてもすばらしい腕を持っている。

『ルディに気をつけろ！』　山のかも鹿たちはそう言っていましめあった。だが娘たちは違う。『この村で一番の狩人はルディ！』そして『ルディに気をおつけ』とは誰も言わなかった。娘たちはみんなルディに憧れているから。

それ程のルディが恐しいクレバスに落ちたことがある。

未だ生まれて間もない頃だった。小さなルディを抱いた母親は嫁入り先のバリスからグリンデルワルトへ２人の狩人と道連れになって帰ることになっていた。

秋の山にはとうに雪が来て、一面に氷河を蔽っていた。

氷河の下には、氷の王女が陥むものを待ちかまえている。クレバスは王女の仕かけた罠である。

息を切らせ氷河を登っていた母親はふと足をとらせクレバスに陥ちた。クレバスは深くなかった。２人の狩人はすぐ助けを求めに村にかけおりた。しかし、その間に恐しい氷の王女は、母親に口づけをした。それは人の命を奪う死の口づけだった。

でもルディは死からまぬかれた。母親が全身でルディを抱きしめて、氷の王女の口づけを拒んだから……。

だがもう少し救いの手が遅れていたら、ルディも氷の王女の犠となっていたろう。氷の王女は呪いのことばを叫ぶ。

『美しい男の子を私から奪ったものがある。しかし、あの子は私のもの……　きっと取りもどしてやる！』

あいにくルディは片親だった。今又、母親を失ったのでルディはグリンデルワルトのおじいさんの手で育てられることになった。

1つ、２つ、ルディはすこやかに育つ。３つ、４つ、５つ、ルディの名はベルナーオーバーランド一帯に響き渡る。

しかし、ルディが切り立つ絶壁をよじ登り、軽々と岩から岩へ飛び移るとき……　その下の谷の氷の上には真っ青な髪をふり乱した氷の王女が突き刺すようにルディをじっと見詰めていたのである。

こうして立派な山の男となったルディは、狩の腕を磨くため、グリンデルワルトからバリスの村にしばらく移り住むこととなった。

2　バリスの谷

美しいバリス！　レマン湖にそそぐローヌ河にほど近い村は、山なみひとつであのイタリアと隣りあっている。

SUNTORY CLUB
IWAKUNI
岩国駅前えみやビル地下
TEL 21-4489

アルビオン化粧品
ヘレナ化粧品
カネボウ化粧品
チャームサロン
フランセ
麻里布町３丁目12－1
TEL 21-4353

曲目解説

明るい空、暖かい大気、美しい自然！
パリスに住むようになったルディはここでも人気者。倖せな毎日を送るようになった。だが、もっともっと美しいものがルディを待ち受けていた。
村はづれの、大きなクルミの木に囲まれた、大きな水車小屋。水車小屋といっても、それはまるでおやしきのように立派で屋根の上には６つも塔がある。
１番高い塔の上には金のリンゴをキラキラ光る金の矢が貫いているカザミ。あのウイルヘルムテルの物語にちなむ風見が、この水車小屋をいっそう立派に見せていた。
バベット！　バベットはその水車小屋の美しい１人娘。ルディはひと目でバベットが好きになった。バベットもルディの男らしい美しさに心をひかれ、２人の間には恋が芽生えた。
そしてある美しい朝、森の中でルディは花を摘みにきたバベットにめぐりあう。ジャコウ草や菩提樹の花の香りが静かに漂い、倖せな２人をうっとりさせる。ルディはバベットの肩をやさしく抱いて、その美しい唇にそっと口づけをした。
しかし、いくら２人が愛し合っていても、バベットの父親は美しい１人娘を狩人の嫁にやる気は全然ない。
そればかりか２人の間を隔ててしまった。アルプスの峯に咲くエーデルワイスの花のように遠く高く。
ある日の夕方、たまりかねたルディはそっとバベットの家の庭に忍んでいった。ところがいつも明るい灯かげに輝くやしきの中はひっそりと暗くしづまりかえって、戸口で可愛い猫がないているばかり。

3　インターラーケン射撃大会

翌る日、ルディは町の人から、バベット親子がインターラーケンの射撃大会を見物に行ったことを知らされた。
『射撃大会！　よし、インターラーケンの大会に行こう。うまくゆけばバベットに会えるかも知れない。バベットのお父さんの目にとまる機会があるかも知れない。そうだ！　インターラーケンに行こう！』
ふだんでもにぎやかなインターラーケンの街は陽気なバンドが人の心を浮きたたせる。
いよいよ競技が始まる、そしてルディの番が回ってきた。やはりルディは故郷での評判どうり見事な腕前。着々と得点を重ね、ついに１等賞を勝ちえた。
『あんたはパリスの若者だね。』ふり返るとルディの目にあのバベットの父親がうつった。その太った体のかげに花のようなバベットが見えた。
ルディはバベットの父親のなかにすっかり自分の腕前に惚れこんでしまった目の色を見た。
『わしは、パリス１の金持、君は、パリス１の射手、そしてパリスに栄光をもたらした。』
大きな手がルディの手を力一杯握った。夢心地でルディはじっとバベットの悦びに燃える顔を見つめるばかりだった。

カメラの御用命は

株式会社　リリーカメラ

本店　岩国市一番町商店街　TEL㉑1038
支店　岩国市駅前アーケード街TEL㉑2674
支店　岩国市航空隊前　TEL㉑1037

毎週日旬日・水旬日 エレクトーン演奏

喫茶 スナック　じゅんとーむ
岩国駅前第一ビル地階　／　TEL　21-1315

4　氷の精の誘惑

翌くる日、帰途についたルディは、沢山の賞品をもて余しながら、いつもより一層元気よく、山越の近道を辿っていた。

しかし、天候はよくなかった。空も山も灰色の厚い雲に包まれている。やがて氷河にさしかかった時、いつの間にか美しい娘が並んで歩いているのに気付いた。その目は冷たい氷のように澄んで、人を惹きつける妖しさがあった。

『誰だろう？　こんな所を。』ルディはグングン妖しい娘から離れていった。

いつか氷河は吹雪に包まれ、風がヒュウヒュウ唸る。

『あいつは氷の王女に仕える魔ものに違いない。』ゾッとして急に足を急がせたルディはひどい吹雪に道を見失なってしまう。

ふと気づくとルディの行手に切り立った岩壁。その下に小さな小屋が見えた。『助かった！』小屋に転げこんだルディの体は氷のように冷えきり、喉は反対に焼けつくようなひどい渇きをおぼえた。

その時低い笑い声が聞こえた『さっきの娘だ！』妖しい娘は目をキラキラさせ喘ぐルディにすすり寄り木の盃に何か注いで飲ませた。『ああうまい！　こんな酒は初めてだ！』

いつかルディの頭は娘のひざの上にあった。心の底までしみ入るような視線がルディにそそがれている。

『これは魔性の女だ！』そう思いながら、ルディはうっとりしてゆく自分をどうにも出来なかった。

娘は妖しく笑ってルディに口づけする。刺し回すような寒気が全身をしびれさせ、ルディは気を失った。

もしこの時南風が雲を吹き払って太陽が姿を見せなかったら、氷の精は永遠にルディを自分のものにしていたに違いない。

5　春の訪れ

長い冬が過ぎ≪春の知らせ≫雪崩の音がアルプスの峯に響き渡る。そして明るい陽の光とともに美しい春が訪れる。

厚い氷に閉ざされていた谷川の流れも、小鳥たちに負けず陽気なさざめきを取り戻す。

自然と共にルディとバベットも悦びの春を迎える。２人はレマン湖のほとりのモントルーの町で結婚式をあげることになった。

父と共に２人は鮮やかな緑のローヌの谷を馬車で下って行った。その馬車をまだ雪の深い山の頂きから氷の王女がくやしそうに見下していた。

『私が、ひとにぎりの氷を転がせば、お前たちはひとたまりもなく押し潰されてしまうのだ！　今にきっとお前たちを打ち砕いてやる！』

憎しみをこめて叫ぶその声は山々に響き渡る。

２日の短い旅の後、モントルーに着いた。２人は早速美しい湖畔を散歩する。バベットは岸からほど近い湖上に可愛い小島を見つけた。それは５、６本のアカシアが茂るほんのひとつまみの花束を置いたような島だったが、バベットはそれが大変気に入った。

喫茶　白樺　しらかば
岩国・２号線砂山バス停横
ＴＥＬ　21－0313

高級用品
さんあい
岩国市駅前中通り　ＴＥＬ　21－3996

ルディはボートを湖にこぎ出した。

オールは真青な水をかきわけ、ボートは静かな湖上を辷る。可愛い小さな島に着いた時、２人をとり巻くすべての山々は夕焼けに燃えていた。

山々は日の沈むにつれ次第に紫色にくすんでいったが、その奥の氷雪に蔽われている山々は残らずキラキラと輝くのがたとえようもなく見事だった。

２人は倖せだった。そして夕日は２人が夢中になって話している間に西の山かげに沈み、湖は次第にたそがれて来た。

『アッ／ボートが／』バベットが叫んだ／

ゆらゆらと波にゆられボートが湖面に漂いだしてゆく。

『ヨシ／　僕が取り戻してくる／』ルディは素早く上着と靴を脱ぎすて湖水に飛びこんだ。

瞬間／≪なんという冷たさ／≫それはたった今、氷河から流れ出したばかりの水もこれ以上冷たくはあるまいと思う程／　そしてボートは目に見えない早さでルディを引き離す。必死で泳ぐルディに異様なしびれが襲いかかる。

その時遠い稲妻が光り、水底に恐しい魔性の姿が浮んだ／　それは、あのクレバスを覗くように、深く、蒼く、暗い遙の水底にうずくまった青い女の姿≪アッ氷の王女／≫ルディは凍るような恐怖に襲われ、最後の力をふり絞り島に引返えそうと焦った。島ではバベットが泣くようにルディの名を呼び続ける。息が止る程の冷たさがルディの力を弱める。２度、３度、水の中で青い女の影がルディに襲いかかる。

遂にルディは剝出しの足に突刺すような冷たさを感じた。それは死につながる最後のとどめであった。

水面が巨大な泉の様に吹き上がる。その頂に蒼白く輝く女の姿。氷の王女である。

『ルディをつかまえた／　小さい時から狙い続けたルディをつかまえた／　彼は永久に私のもの／』

勝ち誇って叫ぶ王女の足もとには息絶えたルディの体が横たわっている。非痛な泣き声をあげて泣き伏すバベット。

大氷河が一瞬に崩壊するような雷鳴が湖を囲む連山に響き渡る。

氷の王女は遠い稲妻に照らし出される氷雪の山に向い、足もとにルディを踏まえたまま空を飛び始める。

6　空翔ける氷の精

薄い銀の裳裾をひるがえし、髪をなびかせ、まっしぐらに飛んでゆく。その死をまきちらす恐しいまなざしに氷の山を見すえ、風のように飛んでゆく。

可哀そうなルディ／　何の罪、咎があってその若い命を氷の精に捧げなければならなかったのであろうか。それは山に生きるものの宿命であったのかも知れない。

岩国中央ゴルフセンター
カレーとコーヒーの店
ト　キ　タ
麻里布町６丁目
21－5495保健所裏

ヤマハステレオ　サマーセール
ふちだ楽器店
岩国市今津町１丁目７－16(１番町)
TEL 21－6281(代)

マンドリン音楽小史

現在のマンドリン音楽

前世紀(19世紀)の中葉、ナポリの楽器製作家バスクワーレ・ヴィナッチア (Vinaccia 1806～1882) は在来のマンドリンに決定的な改良を加えた。

第一に今までのガット弦を捨て鋼鉄絃を用い、第二に鋼鉄絃に都合の良い機械的なペッグ（糸巻）を採用し、第三にフレットの数を17個に増して音域を拡大した。ここに始めて今日我々が見る様なマンドリンが完成したのである。これにやや遅れて同じくナポリのラファエロ・カラーチェ (R・Calace 1864～) が優秀なマンドリンを製作した。このヴィナッチァとカラーチェの製作に成るマンドリンは今日最も信用できる楽器である。こうしてマンドリンが楽器として完成した姿を採ったあかつきに、カルロ・ムニエル (C・Munier 1859～1911) がナポリの一角に声を挙げた。彼は今迄低い地位にあったマンドリンに高い芸術的地位を与える為に先ず可能なる凡ゆる奏法を考究して演奏家として立ち、次に今まで自らの音楽をほとんど持たなかったマンドリンにオリジナルの作品を与えることによって作曲家として立った。而も一般音楽界は未だマンドリンの真価を認めるに至らないような頃であったので、ムニエルは四面楚歌の声に包まれて、一生をマンドリンの為に捧げた。

ムニエルが生れなかったならマンドリンは今日の様には発展しなかったと思われる。

ヴィナッチァをマンドリンの父とすれば、ムニエルはマンドリンの母である。そしてムニエルの薫陶を受けたマンドリニスト達、例ばペティーネ (G・Pettine 1876～)、カンブリア (S・Cambria)、マチョッキ (M・Maciocchi 1874～1955)、ファンタウッチ (L・Fantauzzi ?～1941) を始め、カラーチェ、ロッコ (Rocco) ギリシャのドウニス (M・Dounis 1895～)、ベルギーのラニエーリ (S・Ranieri 1882～1956) 等が19世紀後半以来マンドリンの普及につくす所が多かった。実に一つの音楽（声学は除いて）は楽器製作家と作曲家と演奏の三拍子が揃って始めて独自の世界を形成し発展することが出来るのである。

餡の製造卸・和洋酒類小売

有限会社 駿河屋

代表者 植田三千穂

岩国市今津町5丁目17－5

TEL岩国21－0515・1091

板金・焼付・塗装フレーム修正・大型小型車検整備

岩国大成自動車工業

代表者 山根昭尚

岩国市麻里布町6丁目3の9

TEL岩国㉑5897・6788

MEMBER

指揮者
高島信人
奥西　仁

コンサート・マスター
山添修志

ナレーター
石津恵子（RCC）

ソプラノ＆アルト
野村三重子

司会
田中克佳（RCC）

(Primo Mandolino)
- ◦山添修志
- 新井義悠
- 繁沢秀治
- 瀬村則夫
- 広本佳津恵
- 山本むつ子
- 河田亮子
- 磯部由美子
- 中塚　博
- 中里文昭(Jr)

(2nd Mandolino)
- ◦田村隆司
- 守田史郎
- 宮沢元生
- 松崎みどり
- 岩井由美
- 米村直子
- 久保田幸枝
- 桂　直樹
- 山中敬子
- 中村奈美
- 山本敦美
- 中浜節子

(Mandola Tenore)
- ◦和久本忠史
- 三浦孔司
- 藤本匡孝
- 柴田利和
- 田中正充
- 山根義広
- 酒井喜久子
- 新谷康彦
- 原　和正
- 名越喜彦

(Mandolon Cello)
- ◦山本芳生
- 山根道広
- 奥田憲三
- 石川善久
- 福田雅良
- 佐古雅昭(Jr)

(Mando Lone)
- 広中良実

会　長　三浦孔司
顧　問　熊谷宗圓
幹事長　沖永匡
幹　事　高島信人
　　和久本忠史
　　田中正充
　　安田英雄
会　計　益田真理子
　　竹崎トモ子

(Chitarra)

◦松塚展門
沖永匡
吉岡光則
中原悦子
植田須美子
八百谷和枝
兼本静江
奥西仁
磯部悦子
益田真理子
吉田郁子
木村透
兼弘芳明
中須賀弘明
伊藤慶直
窪田朱美
山本恵子
尾園勝喜(**Jr**)

(Contra Basso)

◦安田英雄
藤岡寿
浅尾佳生
藤島寛治
金井利行
吉田素子

(Flauto)

竹崎トモ子
白銀緑(**Jr**)
吉武博子(**Jr**)
吉原博(賛)

(Clarinetto)

栗栖淑江(**Jr**)
本田巴(**Jr**)
野村真寿美(**Jr**)

(Oboe)

兼重文子(**Jr**)

(Corn)

石井和彦(賛)
藤井美智子(賛)

(Timpani)

吉本屋政幸

(Piano)

比江島静代

(Percussion)

福本和泰(賛)
栢本洋二(**Jr**)

(◦印はパートリーダー)

PROFILE

石 津 恵 子（ナレーター）

広島市に生まれ広島市で育った根っからの広島美人。

大学在学中、一時クラシック・ギターを習っていたのに、いつの間にかフォーク・ソングに興味をもち、自分達のグループ“クッキー＆レモンズ”を作りオーディションをねらったこともあるとか。いかにもピッタリしたグループ名ではないでしょうか。

昨年ＲＣＣに入社し、司会の田中先輩のもとで活躍中。「ミッド・ナイト・パイオニア」と「ポエムでデート」で深夜族には大変な人気です。

（一昨年の評判のナレーター山原玲子さんにつづき、またまたＲＣＣの人気アナウンサーの出演ということで部員一同大変はりきっています。）

詩と音楽を愛するロマンチックなレディですが、広島人らしくカープとサッカーにも熱をあげています。

野 村 三 重 子（ソプラノ、アルト）

国立島根大学教育学部特設音楽高校教員養成課程声楽科で声楽を学び、その後加藤礼子先生に師事し、現在カワイ音楽教室に勤務。

日本の代表的なプリマドンナ“三浦環女史”を少々小さくした感じで、その恵まれた体から出るソプラノはものすごい迫力で、聴いているものを感動させずにはおきません。

フラワーデザインが趣味で、その腕前は専門家はだしとか。料理の腕もバツグンだとか。しかし食べた人がいないのでその真意の程は？？

クラウン
コロナマークⅡ
カリーナ
スプリンター
パブリカ

広島陸運局指定民間車検工場
トヨタ自動車工業㈱指定サービス工場
岩国中央自動車工業株式会社
岩国市室ノ木町１丁目５－17
ＴＥＬ 代表 ㉑ ８１５１

田　中　克　佳（司　会）

昭和８年東京赤坂に生れ、戦火を逃れて玖珂町に帰郷、旧岩中に在学中は故熊谷幹雄先生御指導のハーモニカ・アンサンブルでチェロ・ハーモニカを吹いていた。

また当時の音楽映画「カーネギーホール」「未完成交響楽」を７、８回も見て、音楽に志をいだいたこともあったとか。

その後、早稲田大学を卒業しＲＣＣに入社、ＴＶ・ラジオのアナウンサーを15年勤め、現在は労務管理部門の仕事を担当している。

中学時代の縁で一昨年につづき、今年も後輩と同じ舞台を踏むことができると、我を忘れて情熱をもやしている。

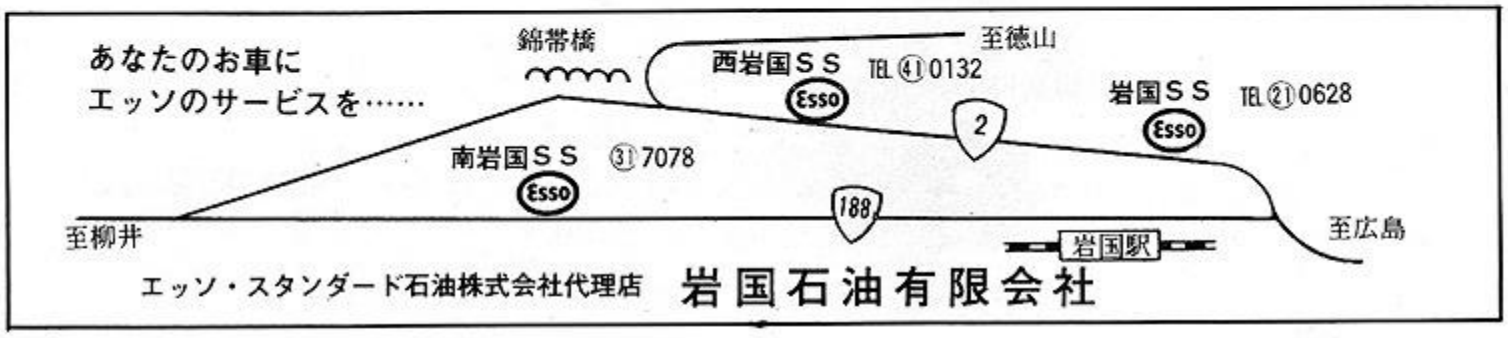
編集後記

今回のプログラムは、15回目の記念すべき定期演奏会なので、独創的で面白いものにしようと心がけていたのですが、力量不足でごくありふれたものになってしまいました。編集を手がけだしてから２カ月あまり、時間はあまりに短かすぎました。しかし自分たちの力の及ぶ限り、努力して来たつもりです。

このプログラムについて、また一般に演奏会のプログラムについて、御意見をアンケートの隅にでもお書き下されば幸せです。

最後に忙しい時間をさいて原稿を提供して下さいました皆様方や御協力願いました広告主の皆様方に紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

編集責任者　田　中　正　充
表紙デザイン　石　井　よしお



「プレクトラム」って何？

「岩国プレクトラム・ソサェティ」、この長ったらしい舌をかみそうな名前。 初めてこの名前を聞いた人は、一度だってすらすら言えないのです。ではなぜこんなややこしい長い名前になったのでしょう。 これを調べるために、クラブの歴史をひもといてみました。

岩国高校に「プレクトラム・アンサンブル」というクラブがあります。 我々メンバーの大半は在学中そのクラブに席を置いていたのです。 そこで、その「プレクトラム」をちょっと拝借し、卒業生の同好会だから「ソサェティ」にでもするかなんてお年寄達（本人はずい分若いつもりらしい）が勝手につけてしまったのです。 その結果、「岩国プレクトラム・ソサェティ」という何やらえたいの知れぬ長い名前となったわけです。

プレクトラムとはラテン語で「爪」のことで、爪で弾いて音を出す楽器のことをプレクトラム楽器といい、 ギターマンドリンがその代表的なものです。 だったらマンドリンクラブと言った方がずっと解り易いじゃないかと思われるでしょう。 しかし昔はきっと「キザ」な人がたくさんいて「俺はラテン語を知っているんだ」なんてイキがっていたのかも知れません。 創立から第12回の定演までは「岩高プレクトラム・ソサェティ」という名前で、執ように岩国高校のO.Bであることを誇示していたようです。 というのは、 何かあるごとに先輩に無理難題を押しつけたり、プログラムの広告をいただくのに都合がよかったからでしょう。 （今回も多数の先輩諸氏にお世話になりました。ありがとうございます。）

第13回の定演からは、我々のクラブも大きくなり、中味も充実し（かなりの自信過剰）、岩国市民の皆さまにもよく知られて来た（本当でしょうか？）ので、 「岩高」を「岩国」と改名して市民の方々にも多数参加していただき、共に音楽を楽しもうと、大それたことを考えたのです。 その時は豪傑がそろっていて、クラブの運営をいっしょうけんめいやりました。彼らの努力のかいあって第13回定演は大成功。 そして「岩高」にまったく関係のない音楽愛好家の方数人にクラブに加入していただくことになりました。

これで名実ともに岩国の「岩国プレクトラム・ソサェティ」になったと、うぬぼれている次第です。

今年でいよいよ15回目の定演を迎えたわけです。 一口に15回と言いますが、年１回ですから実に15年間もやって来たわけです。 最初からずっと出演しているメンバーもX人いるそうですが、メンバーのほとんどは18才から24才くらいまでのヤングです。ステージで奮闘しているメンバーの顔ぶれをよく見て下さい。 ここでもヤングパワーは圧倒的な強さを見せています。

この第15回定演を境に、やがて来る第20回の定演に向って、このヤングパワーが爆発すれば、 「岩国プレクトラムソサェティ」は「全日本プレクトラム・ソサェティ」という名前になっているかもしれません。

（幹事　田中正充）

宮島対岸・宮浜温泉

政府登録第935号　国際観光旅館連盟　日本観光旅館連盟

宮浜観光株式会社

HOTEL 宮浜荘

〒739—04
広島県佐伯郡大野町宮浜温泉
TEL (08295)代⑤2255

本　社　岩国市麻里布町2丁目2－3　〒740　TEL 岩国(0827) ㉑ 1668

音楽とコーヒー

純　喫　茶
サンドイッチ・パーラー

コ　ナ

駅前TEL ㉑ 0552

カフェテリア亜土はおぎょうぎの良い人達の集って来る
コーヒーと軽食のサロンです。
デートに…パーティーに…楽しい集いに御利用下さいませ

亜　土

岩国駅前公園通りふんすい前　もしもし 21—4357

宇宙時代のボウリングーフェテリア
Brunswick（ニューモデル）アストロライン！

岩国ゴールデンボウル
岩国市室の木町1丁目1—19　☎ 22—3322代

IWAKUNI PLECTRUM SOCIETY